



だより



R7.2.25 Vol.40

言わんとってよ!

担任が出張の時、学習監督でその学級に行くことが時々あります。ある学年の教室に行ったとき、物語の音読を一緒にしました。その物語の主人公が、夜怖くて便所に行けない!という件がありました。「この気持ち分かる?」「はい!」「校長先生も年長さんか、1年生くらいの時やったかなあ。住んでいた家が古くて、トイレがあるところがめっちゃ怖くて、夜中に、そこに行くのがすごく怖くて…。この続きの話は、絶対!!誰にも言わんとってよ!」と話す。「はい!分かりました!」と二つ返事!こっそり、続きの内緒話をしたのですが…。翌日「お母さんには話しました!」とあっけらん!「えー!」「だってみんな家の人に話したって言ってますよ!」「がーん(笑)」

マラソン大会に思う

先日のマラソン大会、たくさんの声援、また交通整理、ありがとうございました。練習の時から様子を見ていましたが、手を抜く子が見当たらない。ほんとにすごいと思います。本番も子供たち、息を切らしながら一生懸命頑張っていましたね。一生懸命な姿ってすごく素敵だなと感じます。

私は学校経営を進めるに当たって、楽しさと厳しさの両立を目指しています。楽しいけれど規律や規範がある。しんどいこと、つらいこともあるけど楽しさがある。マラソン大会に向けての練習は厳しいものだったと思います。ただそれを乗り越えた先にある充実感や達成感をぜひ味わってほしい。その経験の積み重ねが、その子の中に打たれ強さや粘り強さを作ってくれる気がします。

みんなとっても素敵でした!



四方山話真穴 ver. 其の三十九(思い出)

記憶のひだの奥の方で眠っていた出来事が、ふとした瞬間に甦る。そんな経験はないでしょうか?私の父母は早くに他界していますが、私の家は家族で菓子製造業を営んでいました。最近、あまり見かけなくなりましたが、ひな祭りのお祝いでよく見られるひなあられの製造販売をしていました。私が小学生の頃から、教師になって何年かくらいまでの間は学校給食でも、その時期になるとうちのひなあられがメニューに並び、なんとなく嬉しかったことをふと思い出しました。中高生の頃だったでしょうか?「家はどこ?仕事は何してるの?」雑談の中で、そんなことを聞かれることが時々ありました。「〇〇町でひなあられ作ってます。」そう言うと「〇〇町?あー!〇〇屋さんがある通り?」と必ず近所の違う菓子店の名前を出されました。多感な時期だったからでしょうか。いわゆる「じゃない方」的な扱いを受けている気がして、いつの頃からか「あ!うちは店頭販売とか、看板を出しているわけじゃないんで、わからないと思いますよ」と前置きをするようになった自分がいました。母屋の裏にある工場(こうば)で朝早くから夜遅くまで懸命に働く両親の姿を見ていましたから、悔しいような、寂しいような、悲しいような何とも言えない気持ちになっていました。素直に伝えればいいのに、反抗期ど真ん中です。親と話していた何かの拍子に「うちの仕事のこと聞かれるの嫌なんよ!わかってもらえんし、いちいち説明せんといけんし!」と突っかったことがありました。厳しい父親でした。一瞬表情が変わりましたが、「そうか…。」と一言言ったままでした。「しまった…。」と思いましたが、謝ることができませんでした。

受験勉強をしていた時期、午前を回った頃、父親が起きてきて、裏の工場に原料を仕込む音が聞こえてきていました。私にとって忘れられない音であり、その父親の背中が誇りでもありました。なぜあの時、謝らなかったのだろう?今もふとした瞬間に甦ってくる苦い思い出です。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。